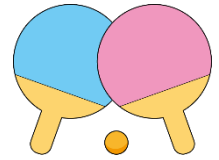




## 第36回 札幌連体育大会報告



例年実施していた札幌連主催による体育大会（種目ソフトバレーボール・卓球）は、コロナにより4年間のブランクを経てようやく本年3月1日（水）9：30～14：30「北ガスアリーナ札幌46」にて開催することが叶いました。

思い起こせば2019年3月6日に第35回大会が開催された後、老朽化した札幌市中央体育館が取り壊されることになり、今回は新築の「アリーナ46」で2020年3月4日の予約を取り、楽しみにしていた矢先に中止を余儀なくされました。その後、感染対策が少しずつ緩められてくるにつれメンバーから、いつ再開されるのかと待ち望む声が聞かれ、札幌連としてもコロナで奪われていた楽しく過ごせる機会を何とか復活できればとの思いで大会への参加を募りました。

エントリー数は前回より半減しましたが、病院デイケア・事業所等の通所者がチームを結成し「ソフトバレーボール」5チーム「卓球」8チームの選手団とスタッフ・応援者で約180名の参加をみました。



開会式では前回の優勝チームより[札幌市長杯]の返還を札幌市保健福祉局・障がい保健福祉部・障がい福祉課の木下健二課長に受けて頂き「大会の復活をお祝い申し上げます。日ごろの練習の成果を大いに発揮され楽しんでけがの無いようにプレーされることを願っています」とのご挨拶を頂きました。

試合開始前にラジオ体操でウォーミングアップをしましたが、コロナ禍を乗り越えて再び試合に臨める喜びと気迫を感じました。



ソフトバレーボールでは各チームとも相手のコートに入れるのも難しいサーブを着実に決め、中にはより強烈に打ち込むサーバーもいて、威力のあるサーブがかなり得点に結びついていました。低いボールを床に滑り込みながら受けようとする選手を見てよほど日頃から鍛えている様子が見て取れました。

段差のある見やすい観覧席からは応援幕を掲げ、選手を元気づける声援が聴こえてきました。



卓球ではサーブの時、球を手のひらに乗せ、垂直に上げてから打つルールを意識するようにしました。2019年から精神障がい者も卓球種目で初めて「全国障害者スポーツ大会」参加の道が開かれ、大きな大会を目指す選手にとっては必須なものとなります。今年は出場チーム数が少なめでしたので、初戦で敗退した4チームによるトーナメントも行い、多くの選手がプレーできる機会を増やす事が出来ました。



閉会式では菅原会長から「4年ぶりに皆さんが夢中になってスポーツに取り組んでいる姿を観る事が出来てうれしいです。一人のけがもなく無事に終わられてほっとしています。来年また会いましょう」と挨拶され、審判団の講評では「一番印象に残ったことは皆さんがプレーを楽しんでいることです。勝っていても負けていても、楽しくプレーをし続けている姿に感銘しました」とのことでした。



閉会式を終えての帰り際にあるチームの人から「とても楽しく過ごす事が出来ました。どうもありがとう」と言われたときは主催者冥利に尽きる思いでした。

朝早くから会場設営、競技の審判、後片付けなどで運営にご協力いただいた「札幌バレーボール協会」「北海学園大学卓球部」「札幌市障がい者スポーツ協会」ほか関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

第23回札幌市障がい者スポーツ大会開催（すずらんピック2023）

精神障がいの部 種目 卓球

日時 5月14日(日) 会場 札幌市北区体育館

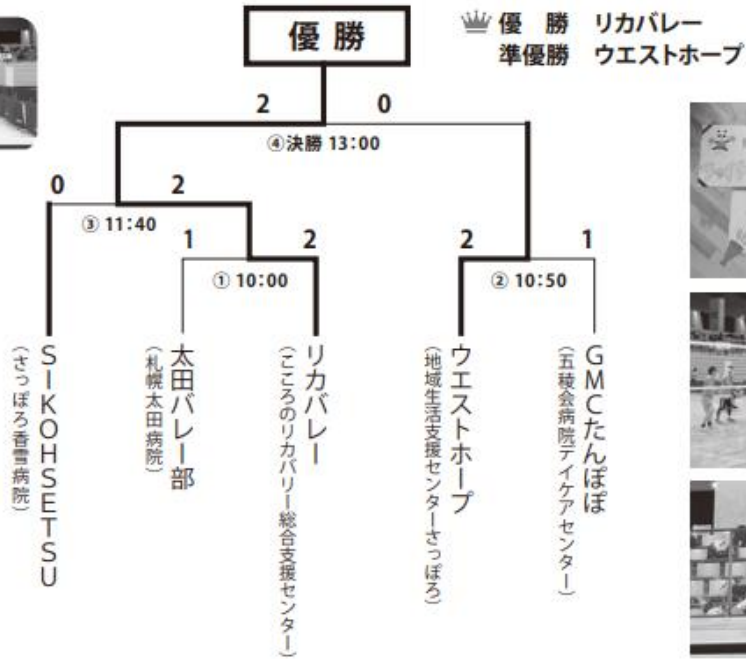
すでに申込期間は終了しました。

男子の部 18名 女子の部 6名が参加します

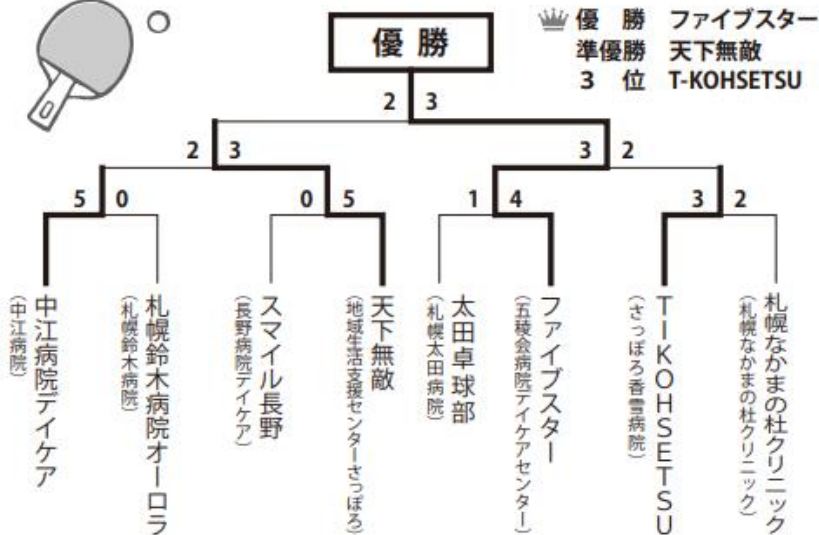
応援お待ちしております！

お問合せは011-596-8887

## ソフトバレーボール対戦表



## 卓球対戦表



3.4位対戦表



初戦敗退チーム対戦表

